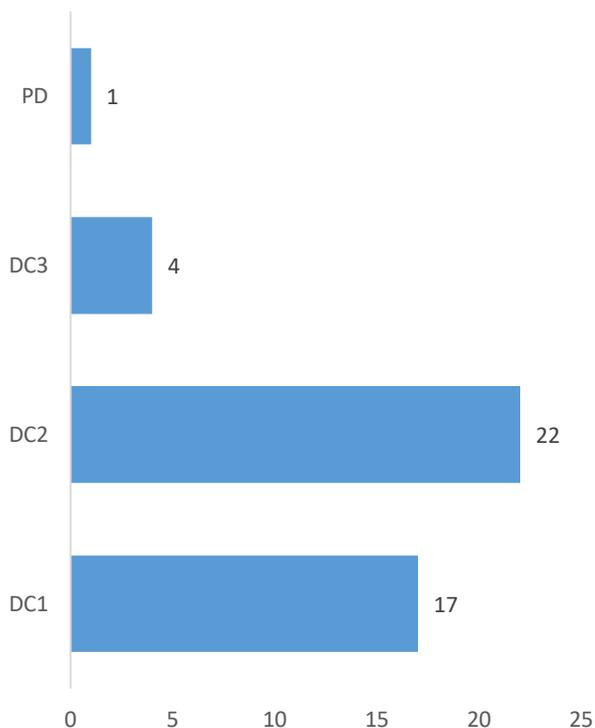


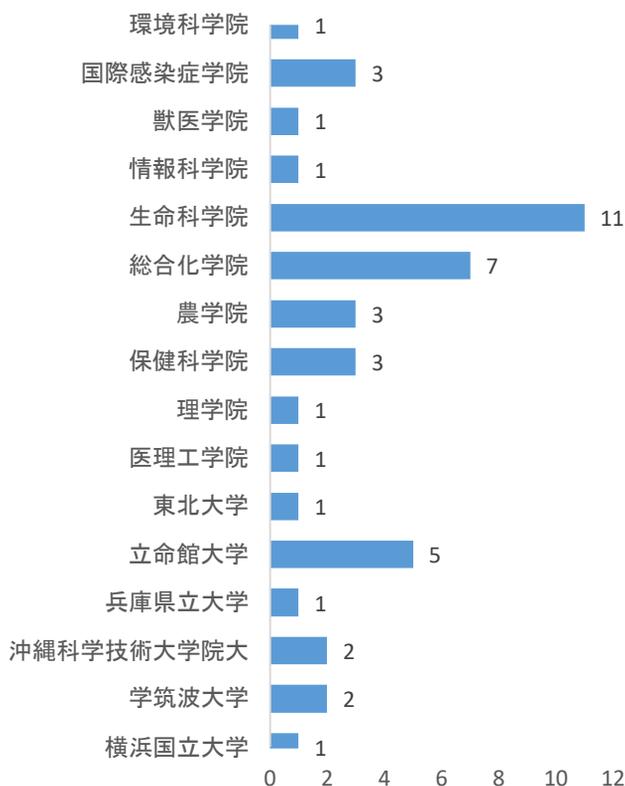
第52回（R5第1回）赤い糸会（ONLINE）アンケート

[1] 回答者：博士人材44名・企業21名（参加者：博士人材45名・企業17社）

博士人材学年

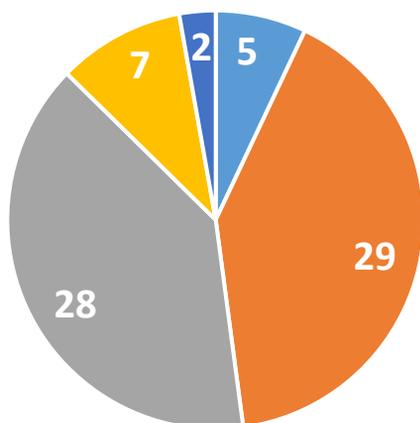


博士人材所属



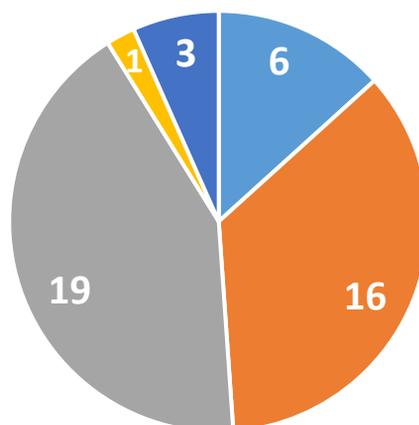
[2] 博士人材プレゼンテーション

アピールできた点(博士人材)



- プレゼン技法
- 専門性
- 人物・個性・特徴
- パワーポイント・資料作成能力
- その他

注目する点(企業)

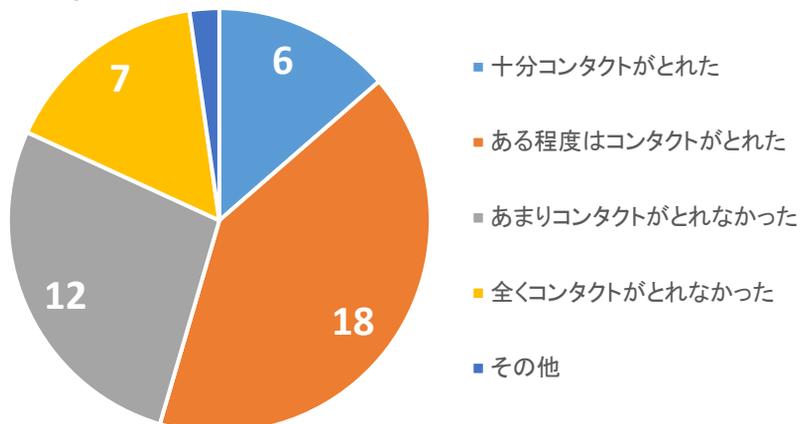


- プレゼン技法
- 専門性
- 人物・個性・特徴
- パワーポイント・資料作成能力
- その他

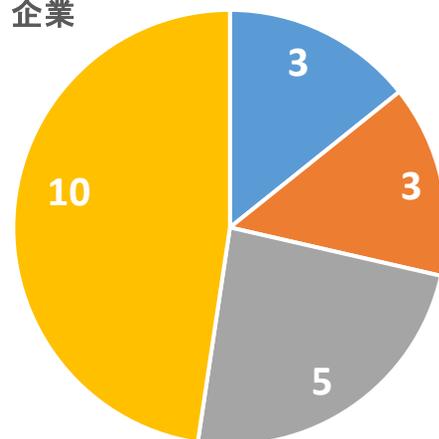
[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

■連絡先一覧を使用してのコンタクトについて

博士人材

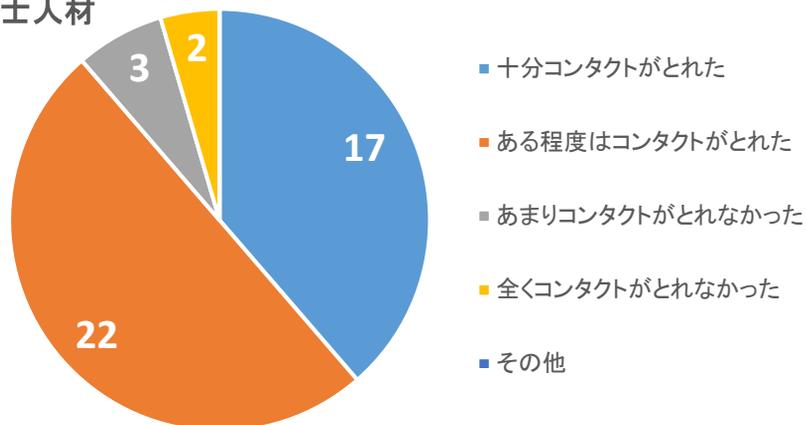


企業

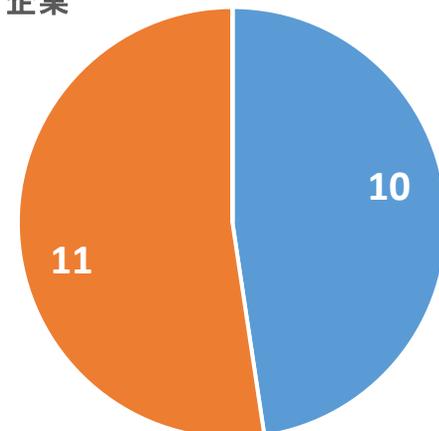


■Zoom(企業ルーム交流会)でのコンタクトについて

博士人材

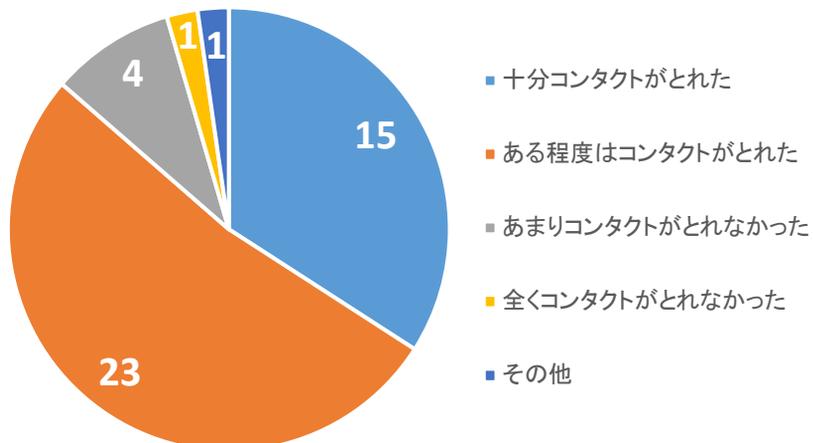


企業

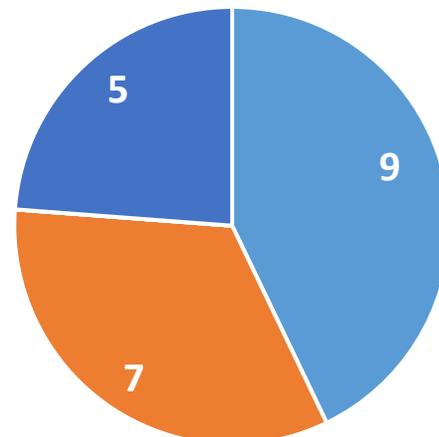


■SpatialChat(懇親会)でのコンタクトについて

博士人材

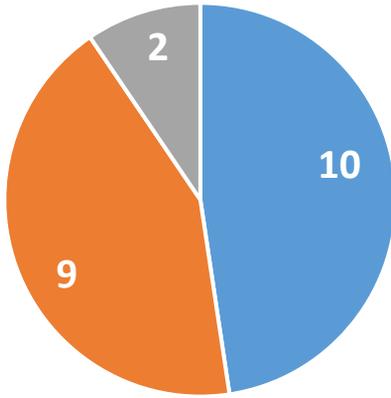


企業



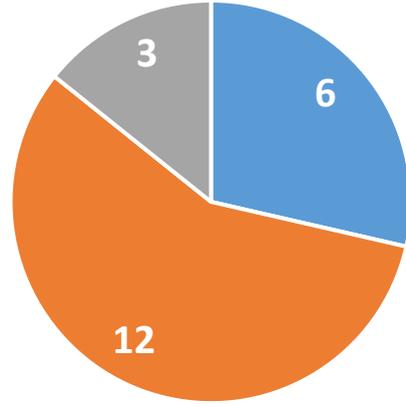
[4] 企業のみ

参加博士人材について



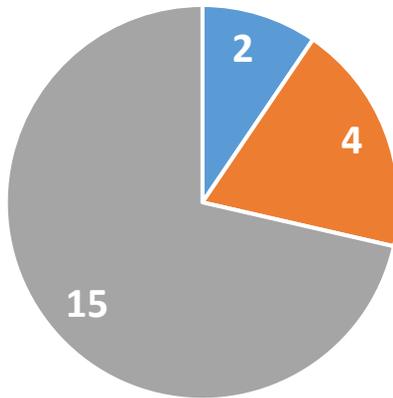
- 1. 欲しい分野の博士人材に会えた
- 2. 意外な分野の博士人材に会えた
- 3. どちらでもない

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください。



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1ヵ月位)について

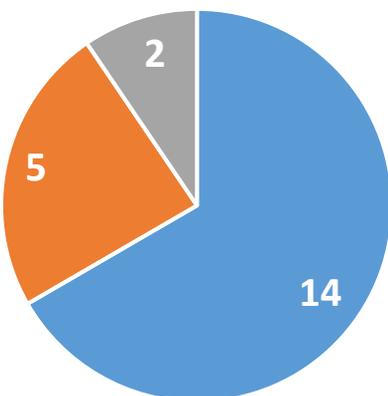


- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方：
差し支えなければ、理由をお教えてください。

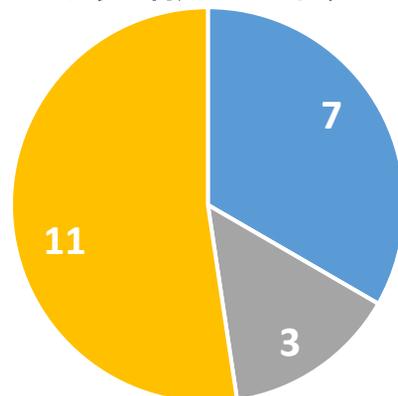
ジョブ型研究ISで適宜オープンにしている
博士のISを検討中のため。まだわかりません。
研究所のセキュリティ基準が高い為、部外者を招くのは難しいと判断しました。
①社内工数の対応②情報の知財や機密性の観点から学生の満足できるプログラムが提供できない③博士学生には研究室で大学の研究に専念して専門性の深化と成長をしてほしいから
業務の性質上、インターンシップの設定が難しいため
検討中ではありますが、現状は社内の体制が整っていないため申し訳ございません。
受け入れ体制構築が済んでいないため
1日インターンシップはご参加頂けます。また18ヶ月の長期インターンシップは別途選考を設けております。1ヶ月ほどのインターンは受け入れ予定がないためです。
今年度から試行的に5Daysまで拡充 長期インターンシップについては、検討中のため
英国ケンブリッジ本社で12ヶ月間のインターンシップを提供しているのみなので
研究開発現場での受入れ対応が整備できていないため
受け入れの体制が社内で整っていないため

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

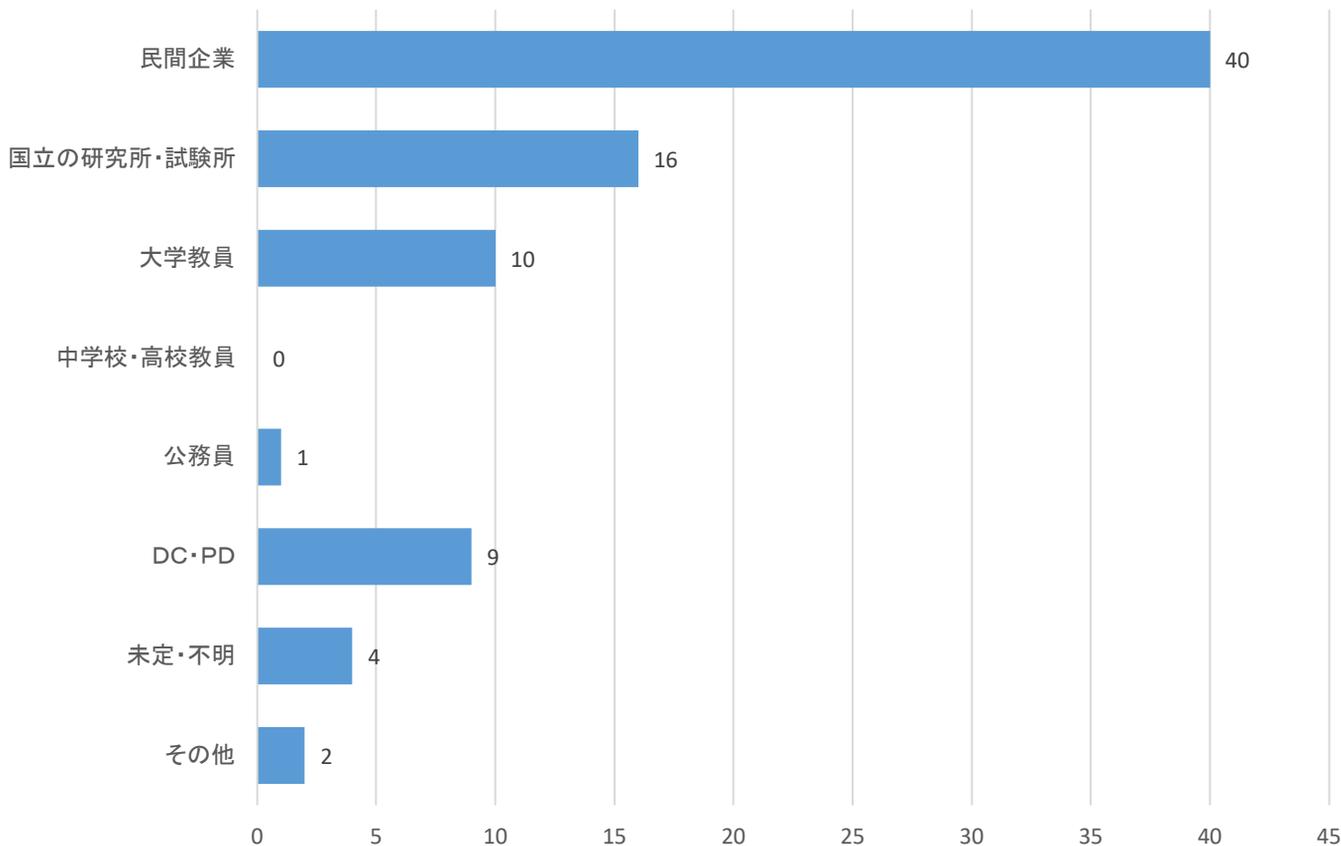
Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)はどのように利用していますか？



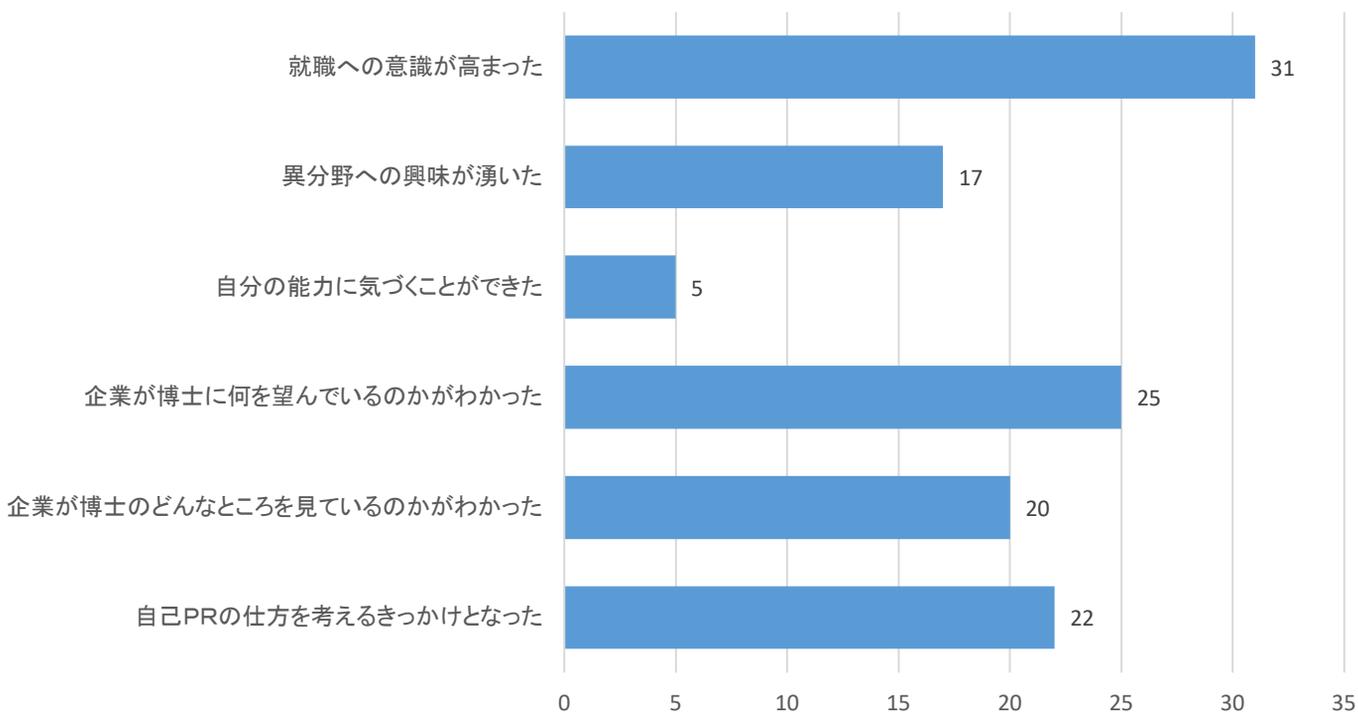
- 1. イベント参加
- 2. コミュニティ
- 3. 博士人材検索
- 4. 利用していない

[5] 博士人材のみ

あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



「赤い糸ONLINE」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）

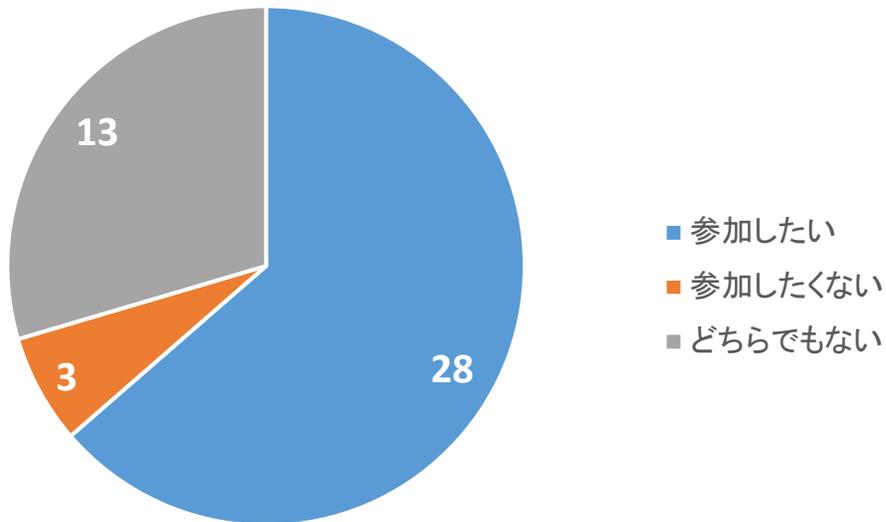


[6] 「赤い糸ONLINE」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）

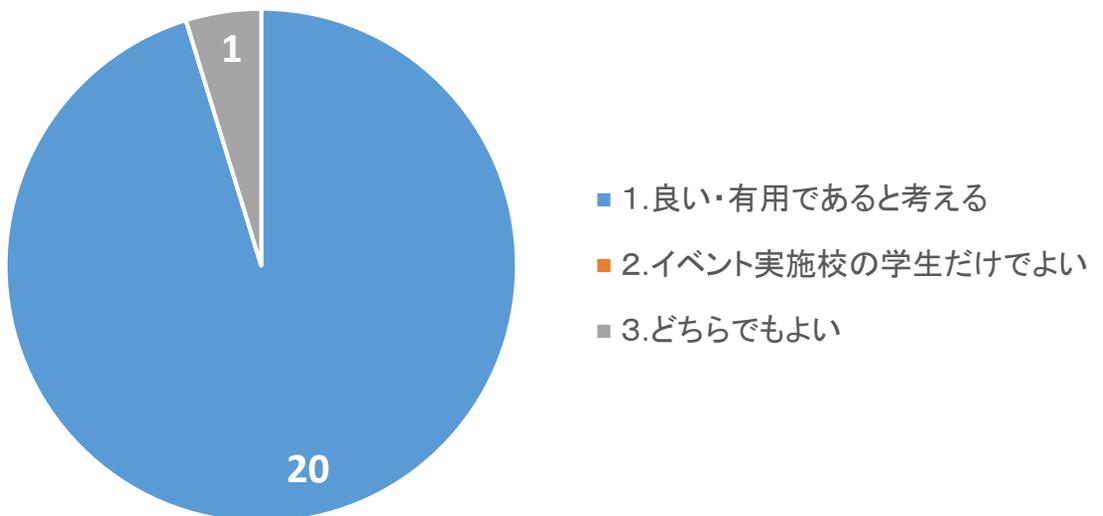
1	実際に企業で研究することになったとしても現在の学生時代と変わらず、試行錯誤と実験の日々だと思った
2	知らなかった企業についても知れたこと。
3	思っていたほど専門性を重視していないと感じました。
4	詳細に企業の担当者に質問してみて初めて、企業によって結構違いがあることを理解した。
5	一方的に興味があるだけでなく、自分の専門分野について、企業が欲しているものとマッチしていることが大切だと感じ、企業研究の大切さを理解した。また、実際にお会いしてお話を聞くことが一番わかりやすいと思った。
6	企業の方から見た研究の立ち位置(実際に薬としたときにこの技術は役立つと思いますか?)、企業の方から見た私の研究への疑問点、などはとても気づきになった。 技術面接に生かそうと思いました。また、たとえば製薬会社のような、競合会社でも、人事の方の印象から、その会社の雰囲気は何えます。強みとする領域や規模感も違いました。 また、短時間で鋭いご意見を頂くことが多く、技術面接・人事面接でも覚悟して臨まなければという思いが高まりました。また博士人材である学生みんなが積極的で、非常にいい意見を出しているのを聞き、自分も頑張らねばというモチベーションを得ました。
7	情報交換交流会で人の集まり方を観察すると、どこが人気企業なのかがわかった。
8	自身のキャラについて。おそらく人によっては怒りを覚えるような話し方なのかもしれないと感じる場面があった。今後第53回赤い糸会のポスター発表もあるため、注意していきたい。
9	まだまだ自分の知らない会社が多いなと実感した
10	就活における自己PRのポイントや、プレゼンテーションスキルについて非常に参考になった
11	自分がどのような企業で働きたいかをはっきり示すこと
12	異分野の仕事について知ることができました。
13	興味のある業種以外でも活躍できるところがあること
14	思っている以上に、「どのように研究を進めているのか」「着想は何だったのか」といった思考プロセスを言語化することが求められていると感じた。
15	同じ質問でも答え方のアプローチがそれぞれの企業様で異なったため、企業理解に繋がりました。
16	企業の研究者は、専門性よりも研究遂行能力などを中心にしていることに気づいた。
17	自身のPRの仕方
18	自身のキャリアについて、考えが及んでいない部分が分かった
19	企業が博士人材に求めることはどの分野においてもいかに研究と真摯に向き合ってきているかということなのかなと感じました。
20	博士人材を求めている企業が様々な分野であるということに気づきました。
21	自身の専門を生かせる企業は、自分が思うよりもたくさんあること。
22	就活は博士課程1回生の時からスタートしなければならないこと
23	同じ業界の企業でも、博士人材に求める能力がそれぞれ異なること。エントリーシートの作成にかなり影響があったと感じたので、興味がある企業については直接人事の方に質問できる機会を持つことが重要だと感じた。
24	企業に対する印象が、参加されている社員の方の印象で大きく変わること
25	企業とのラポール形成がしやすくなる

[7] 東北大学・名古屋大学・北海道大学におけるコンソーシアム（全13大学）の取組みで、本会のような各大学マッチングイベントに連携大学の学生が参加可能なことについて

博士人材



企業



コンソーシアム(全13大学)の取組みについてご意見がございましたらお聞かせください。

弊社メインの採用対象専攻の機械、電気、電子、材料など工学系の学生が増えると嬉しいです。

連携した取り組みのため企業側としては幅広く広報をできることが有益です

インターンシップを活性化するような取り組みがあると良いかと思えます。

[8] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

1	自身の研究を突き詰めてほしい、後輩指導などでリーダーシップを発揮してほしい
2	研究DX推進可能な人材
3	社会実装を踏まえた研究活動。
4	ボトムアップでやりたいことを上司に提案し自身が想いをもって働いていただくこと。
5	研究を頑張ってもらいたい
6	研究の専門性, 自主性, 課題解決力
7	専門性
8	研究に加えて学会や課外活動など積極的に自信を高める活動を推進できる行動力ある方と出会える事を楽しみにしています。
9	研究力のアピールをしてほしい
10	引き続き、研究室での研究を通して研究に対する主体性を身につけてほしいと思います。
11	自分の専門分野だけでなく新たな分野に挑戦する気概が欲しい。今回そういう方がいた。
12	既に多くの取り組み等していただいておりますが、専門分野のみならず、引き続き広い視野で活躍の業種や職種をご検討いただけますと幸いです。
13	学生のプレゼンや質疑応答の時間を長めに頂けると有難いです
14	初期段階では、ご自身の専門性以外の領域にいる企業にもご関心を持って頂けると良いかと思っております。
15	専門性が高く研究経験があるので、即戦力としてはもちろん、より若い人の指導的役割にも期待したい。一方で、大学よりも実用的な研究や技術開発が求められ、グループで仕事をする事も多いので、専門ガチガチでない柔軟性も欲しい。また、近年は、温暖化適応やエネルギー問題など、専門分野を超えた学際的な(Interdisciplinary)研究活動が必要な課題が多いので、専門以外の分野を学ぶこと、他分野の人たちとチームになって働くことができる素養、そういう研究を仕掛けることができる能力もあれば嬉しい。
16	現在の研究をそのまま継続する以外のキャリアパスについて、自分のどのようなスキルがどのような仕事でどう貢献できるのかについてもう少し考えて欲しい
17	専門性を磨き、後輩指導などコミュニケーションも積極的に行って頂きたいです。
18	日本国内だけでなく、海外で活躍すること
19	専門性を高めていただきたいと思います
20	是非、会社説明会等ご参加いただけると幸いです。
21	ご自身のどんな強みを生かして仕事をしてみたいかを積極的に教えてもらいたい

[9] 全体を通して、「赤い糸会」（赤い糸ONLINE）についての意見、要望など

博士人材

1	北大のみ参加可能なものを他大学にも広げてほしい。
2	非常に役に立っていました。ありがとうございます。
3	博士プレゼンの時間が短いと感じました。質疑応答以外のコミュニケーションができる時間があつたらいいと個人的には思います。
4	第52回と53回の開催の間隔が短いのでもう少し開けてほしい。準備が大変だった。
5	自分のやりたいことを見つめなおすとても良い機会だった。
6	今後もこのようなすばらしい取り組みを続けてほしいです。
7	2日間に分けて、1日目は企業の話聞き、2日目は博士人材プレゼンがいいと思った。2日目に博士人材プレゼンすることで、企業のニーズに合わせた売り込み方ができると考えた。また、博士人材プレゼンの時間と回数を増やしてほしい。
8	カメラ写りも一部要因としてあるが、雰囲気はかなり暗い企業もあり、話を進めていくうえでやりづらさを感じる場面があった。
9	今回はオンライン開催であったため、気軽に参加することができたので良かった。特に関西から北海道は遠い。ぜひ次は対面で企業の方と話せる機会があれば、良いと思う。
10	現在のように自分が参加できないタイミングであってもイベントの告知があることで、具体的にどのような企業が博士人材に関心を持っているかを知ることができるのでとても有益だと感じています。
11	私が興味を持っていた全ての企業に対して発表をすることができなかったことは少し残念だったが、全体を通してたくさんの企業(特に製薬企業)と交流することができて大変貴重な経験となりました。また、事前に行ったプレゼンテーション演習は予想よりもレベルが高く、プレゼンテーションスキル・自己アピールの勉強になりました。
12	1枠あたりの博士プレゼン時間がもう少し欲しい。 企業ルームと座談会の内容の差別化をしてほしい
13	職種がすぐに分かるとありがたいです。どの分野の研究職なのか人事かによって説明の仕方が大きく変わるため。
14	大規模な会になると、通信障害が起きやすくなる印象があります。ONLINEのイベントだとしても、もう少しコンパクトなスケールにしていただけたら幸いです。
15	事前演習からサポートがあるので、安心して当日に挑むことができた
16	企業説明会のような一歩通行のものでなく、双方がより密に接することができる貴重な機会になったと思います。また、プレゼン演習を通して自分の研究のアピールの仕方も学ぶことができました。ありがとうございました。
17	就活をするうえでとても参考になりました。
18	プログラムが少し長く感じました。個人的には、企業ルーム交流や情報交換会はとても収穫があり良かったのですが、博士人材プレゼンを8回分もやって何かに繋がるのか少し疑問に感じたので、もう少し回数を減らしてプログラム全体の時間が短いとより参加しやすいと思いました。
19	ブレイクルームに移動して画面共有したときにどこに残り時間が表示されているのかわからず、最初戸惑いました(画面共有していないときの表示は教えていただきましたが)。休憩時間が程よくあり、助かりました。
20	有意義な時間を過ごせました
21	プレゼン時間3分は少し短く感じました。

企業

1	毎年お世話になっております。今後もよろしく願いいたします。
2	非常に有意義な時間でした
3	イベントのご企画・運営対応ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。化学系の学生が多いので工学系の学生が増えると嬉しいです。
4	様々なイベントに参加しますが、赤い糸会が最もしっかりしていて色々な方と無駄なく深く交流ができます。また北大をはじめ、レベルの高い博士人材が集まってきて、他のイベントに比較し真っ当な方が多い印象です。
5	少人数制で必要な人にコンタクトできるのはいい機会だと思った
6	はじめて参加したが、多くの博士学生と交流できる良い機会であった。
7	私が在学中より活動が活発なので、ぜひ続けてほしい
8	対面でお会いできると短時間のコミュニケーションでも得られる情報が多くなりますので、大変とは存じますがリアルでの開催もご検討いただけますと幸いです。
9	このような機会は有用であるので、機会があれば利用したい。
10	1点だけ、当日の博士人材と交流できる時間が8-9分だと短く感じました。もう数分長いと質問が深堀りできたと思いました。それ以外は、どの学生もしっかりと準備をして臨んでいただき、皆さん前のめりで情報を集めており、優秀な学生ばかりだったと思います。
11	優秀な人材に会える機会としてありがたく感じています。
12	半日の間に、予想以上に多くの優秀な学生様と密に交流することができ、大変貴重な機会となりました。博士の皆様のプレゼンテーションも、わかりやすさや短時間でのPRなど工夫されており非常に素晴らしかったです。自由訪問や交流会でも積極的にご質問をいただきましたため、熱意も伝わってきました。本日はありがとうございました。
13	参加させていただきありがとうございました。次年度は対面の際にお伺いできればと思っております。
14	多くの博士人材と交流ができ貴重な機会をありがとうございました。
15	様々な分野の学生が参加されており大変有意義な時間となりました。
16	とても良く工夫された取組みで毎年楽しみにしております。ありがとうございました。
17	今年も参加させて頂きありがとうございました。多くの博士人材にお会いすることができ、大変有難く思います。
18	OnlineよりもF2Fのイベントが良いと思います。
19	多くの人材に会えたのはよかったです。
20	様々な博士の方の発表をお聞きできたので、非常に勉強になりました。
21	事前の準備や当日の運営も滞りなく、大変充実したイベントであると思います。来年以降は、できれば現地開催の回にも参加させていただくことができればと考えています。

[10] J-window（先端人材育成センター担当教員との面談、エントリーシートなどの添削、面接練習）の利用について

